

わが村は美しく

当別町編

第十回 奨励賞

北海道当別高等学校 ボランティア局



地域との交流につながった「当別青春フットパス」。



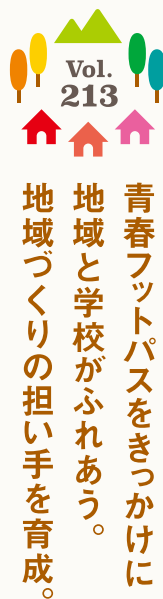
発表を聞き終わった後、生徒は学習の達成度を判断するため評価シートに記入。



北海道当別高等学校 校長
保格 秀規さん

お話をしてくれた人

高校生が運営する
全国初のフットパス活動



札幌市に隣接する自然豊かな当別町。スウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携を結び、北欧の街並みを体感できるスウェーデンヒルズなど多彩な顔を持つ。町の北部にある約二万二〇〇〇haの「道民の森」ではキャンプなどのアウトドアが楽しめる。

JR当別駅から徒歩十五分ほどにある北海道当別高等学校。普通科、園芸デザイン科、家政科の三科体制で、一五〇人ほどの生徒が学んでいる。

同校は、二〇二四年から、学習の一環として園芸デザイン科の生徒が農村景観を評価するフットパスを開始。二年後には、町の魅力を発信するウォーキングツアー「当別青春フットパス」と発

展させ、ツアーを成功させるべく部活動の一つであるボランティア局が企画運営を担当した。

校長の保格秀規さんは話す。「生徒の七割近くが札幌市からの通学生です。フットパス活動が全校的取り組みへ発展し、日々、地域とのつながりが深まっています。二〇二二年からは北海道教育委員会が進める『北海道CLASプロジェクト（地学協働活動推進実証事業）』の実施校として、地域と学校が連携を強化。フィールドワークなどで地域づくりの担い手を育成しようとしています」。

当別青春フットパスのツアーは局員の案内で町内の約五〜七kmを、ゴミを拾いながら歩く。また、家政科生徒が地域の特産物を使った昼食を提供。吹奏楽部や茶道部なども活動を披露し、地域の研究家を招いたミニ講座も開催した。

第10回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

当別町へはJR学園都市線・当別駅で下車。周辺を散策するなら、札幌駅や新千歳空港から駅レンタカーを利用すると便利。6月には日本で唯一北欧の「夏至祭」が開催され、多くの観光客が訪れる。詳しい観光情報は当別町のHPを参考にしてください。

お問い合わせ／☎0133・23・2444



4 閉校となった町内の小中学校の現在を詳細に記した8班の展示。



3 8つのブースに区切って同時に発表する様子。聞き役の生徒はローテーションで移動して行く。



7 「ヤギ小屋秘密基地づくり」班が製作した地元商店街のカラフルな壁画。



6 「当別青春フットパス」の道中で記念碑などについて説明。参加者に町の魅力を伝えている。



5 プレゼンテーションの基礎を学ぶ1年生。レポートのまとめのポイントを古谷先生が解説。

取材に訪れた日は、地学協働活動推進実証事業のまとめとなる「総合的な探究の時間発表会」が開かれていた。体育館は八つのテーマ班ごとにスペースが区切られ、三年生の各班代表者が八分間の持ち時間でプレゼンテーションを実施。一、二年生は移動しながらローテーションでそのプレゼンを聞くというシステム。テーマは、地場産クラフトビール造り、レストランのメニュー開発、

地域をより深く知り 町づくりのリーダーを育てる

局員で三年の伊藤寛人さん（いとうひろと）は「当別町の自然を実感できるのでボランティア局を選びました。それまで人と話すことが苦手でしたが、フットパス活動などを通して、コミュニケーション能力がついたと思います」と話す。この活動が二〇二二年に大きな実を結ぶ。冒頭で保格校長が話してくれた、地学協働活動推進実証事業へとつながっていったのだ。

「ひたすら黒板を書き写すだけの授業ではなく、町内全てを教室として、社会参画で知ることのできる知識や技術こそがこれからの学びだと思っています」と保格校長が締めくくった。高校を巣立った生徒が、町づくりの担い手として活躍する日が楽しみだ。

ヤギ小屋秘密基地づくり、道の駅の観光コーナーづくり、ソフトクリーム商品づくり、歴史発見やアートなど、どれもが当別町の魅力発信につながるもの。班員が一人の八班は、「当別町魅力発見・発信」をテーマとして、当別町で閉校となった小中学校の現在を探究。十九校を訪れて現況を撮影し、町史を調べてパネルで紹介していた。「知らないことが多過ぎた。新たな気づきがあつてよかった」と三年の浅田竜誠さん（あさだりゅうせい）は達成感を手に入れていた。

「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311（内線5685）

